

2021年度GTセミナー GTサミット2021③

第245号 2021年11月8日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていくよう
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

GTサミット2021③

2021年10月19日、20日に「GTサミット2021」を
赤坂スターゲートプラザで開催し、Zoomでも同時配信しました。

全国から70施設を超えるお申し込みを頂き、これからの保育について学んでいきました。

(前号から引き続きGTサミット2021の講演録をお送りします)
本誌、第243号GTサミット2021も併せてご確認ください!

1日目 2021年10月19日(火)

13:30～ 講演 GT代表 藤森 平司 「今後の保育の歩む方向」

15:30～ 休憩

16:00～ 講演 鈴木 寛様 「これからの教育と幼児教育」

18:00 1日目終了

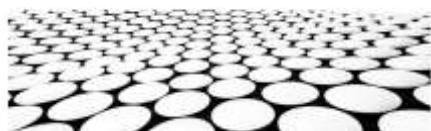
2日目 2021年10月20日(水)

9:30～ リレー講演

12:00～ 終了



今後の保育の歩む方向



保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

(前号から引き続き GT サミット 2021 の講演録をお送りします)

—日本の教育力—

鈴木先生の話にも出てくるかもしれません、最近、日本の小学校と中学校的学力調査は高いものがあります。それに比べ大学生になると日本はどんどん下がってくる。先日、新聞に出ていたのが大学を出た人の競争力が出ていた。日本は数年前、世界1位だったが、34か国中最下位でした。あれだけ中学まで高いのに競争力が低い。大学のランクも、日本は東大でさえ世界では下の方。なんで低いのかということがあります。高田馬場に早稲田大学があるが、総長の記事が寄稿されていました。日本は大学時代きちんと学んでいない。高校から受験をするために勉強をします。大学に入ると、サークルやバイトをして、会社でスキルを学べばいいと意識が強い。大学時代の学びを有効にできていないと出ていた。かつてはそれで成り立っていたが、4年間で何を学ぶかがないと置いていかれる。それがよく言うのが、日本の大学は入るは難しいが出るのが簡単と言われます。大学は4年間行けば大体、卒業が出来る。試験や論文があるにしても、行けば大学を出れます。高校から大学までの学力で社会に出てしまう。それでは間に合わない。世界に置いていかれると総長が言っていました。まず一つは大学入試の私立なので、日本の欠点は文系と理系に分かれ、科目が限定をされる。文系は数学をしない、理系は地理などをしないので、そのまま社会に出ることが問題であると書いています。文系・理系の考え方、試験がどんどん減っています。私が都立高校の受験の時は9科目でした。美術も音楽も技術もペーパーがありました。いいか悪いかわかりませんが、教養と言われるものは、その時に覚えたものが多いです。音楽なんかもテストもあるが、階名もできないといけないし、何調ですか？とか、観賞曲の何小節かを覚えるとか、美術は光の三原色を混ぜるとこうなるとか、補色はどうかなどを覚える。技術家庭は板にくぎを打つ時には、木裏から打った方がいいかとか、こういうのも覚える。それがすぐあとは3科目に減ってしまい5教科に戻り、少ない科目でこれから社会は片方だけではいかなくなる。情報や統計的な物、データ分析が必要なんですね。理系にしても地理などが必要になる。総長は、文系・理系は分けない方がいいと提案しています。大学4年間で何を学んだかをして送り出さないと、世界の競争に置いていかれると書いていました。これは履修主義と習得主義の違いです。ある年数を経れば上にいける。ある年になると、全員が1年生になり、2年生になる。出来ようが、出来まいが、その年数を経れば学年が上がる。これが履修主義です。今回のコロナで9月入学を検討する中で、履修主義から習得主義が検討されたが、習得主義は、出来なければもう一度やるので、落第するとかわいそう、卑屈になるからと反対意見が出た。しかし、出来ようが出来まいが年数を経れば上に行ってしまうと、上に行けば行くほど、どんどんわからなくなる。どっちがかわいそうですね。9科目の時に、今の世の中に出て、役になっていくように、確実にやって送り出した方がいいと思う。

—履修主義・習得主義—

まだまだ日本は履修主義です。幼児教育も履修主義なんです。年小を1年やれば、年中になる。その発達が出来ようが、出来まいが1つずつ上に行く。まだはさみが出来なくても、1年経てば年長になってしまいます。それでも年長だからと難しいものを作らされる。私はそうではなくて、発達は習得主義でないといけないと思っています。一人ずつの発達を遂げさせて、次に行かせよう。その子が何が出来るのかで保育する課題が決まってくると、異年齢になる可能性が高い。子ども一人一人の発達を捉え、課題をやってあげるとしたら、異年齢になる可能性方が高い。指針の改定

がそっちの方向になっていると思う。発達過程が書かれなくなり、卒業までの姿が書かれるようになったが、習得主義に代わったことだと思います。しかし、小学校の履修主義を踏まえてしまっているのが、幼児教育における学年という考え方です。年長は年長のやるべきことがあるでしょということがあります、年中のことがやり終えた子がやるべきことであって、年としての問題ではないと思うんですね。逆の違い、それはどういうことか言うと、非認知能力は、子ども同士の中で身についてきて、多くは兄弟の中で身につけてきた。負けないようにしたり、真似をしようとしたら、兄弟の中で起きました。基本的に兄弟は異年齢です。子ども同士の関わりは、兄弟・地域の中で育ってきたとしたら異年齢。非認知能力をつけようとしたら、異年齢でしたらより効果的。モンテは異年齢の集団を作ります。あの場合は教具を使うときに、自分で選べるように異年齢の関わりは薄い。異年齢児保育をしていても、異年齢は私たちが提案する保育の特徴です。当然、異年齢児集団を作ることは出来るが、交流をするのはやはり、理念が通っていないとダメ。

—「見守る保育」の実践園とは—

次の質問が「他園で、見守る保育を導入するはどういうことか?」「各園長は、それぞれ理想があるわけだが、見守る保育を学びたいと思うのはなぜか?」最初の答えに困りました。当然、いろいろな考え方があります。乳児保育をうちの職員がキャリアアップで聞きました。乳児保育は、母親のように慈しむということを言っていました。母親のイメージとはどういうものか。虐待する母親もいるわけで、母親のようにではわかりづらい。その中で、どういう保育かの指標を示さないと、人によって違ってしまいます。違っていいものと、違っていけないものを分けないといけない。私たちは山の頂上を目指して上っている。ある人は別の山を登っている。どの道にいこうが自由。上り方は自由。それは、急なところか、緩やかや、景色がいいとか、それです。頂上を目指すことは一緒にしないといけない。意外と学校も校長によって違ってくるように、園長の考えが、職員に浸透していきます。それを目指すために、具体的な方法を示さないといけないです。講演の多い大学の先生は、人がいい人が多いです。人格者が多いですが、どうも先ほどの文系・理系ではないが、どうも文系が多い。最終的に、非認知能力が大事と言っても、どうやつたらいいのか、身につくのかがない。保育者も文系なので、琴線に触れて、園に戻ってどうしようかとなると具体的な方法が浮かばない。学び方はなかなか大変です。本来は一番の理念は、「共生と貢献」です。特にSDGsも含め、他のものと協力する。特に人同士だけではなく、ものにしても生き物と共生していくという概念がないと持続していけない。遺伝子は自分たちのを残そうとするが、お互いを認め合って、大事にしていかないと共生する社会を作らないといけない。中国や韓国に広げるのは、もともとホモサピエンスは同じところから出てきていて、共生していく必要がある。お互いがお互いを認め合っていくのが共生。もう一つは、人は共生する中で特別な存在です。壊すことも活かすこともできる、共生して黙って認めるだけではなく貢献。私たちがやらなければいけない使命がある。他のものと共生し、他のものに貢献する。本当は、共通であってほしいと思っています。どこの人でも、どこでも大事なことだと思います。そのためにどういう方法か。方法は、地域性や文化や風土がある中で考えていけばいい。そういう当たり前の中で、私たちは小学校の刷り込みや、戦前の刷り込みを強く持っているので、見守る保育の概念を出して、戦前からの教育などおかしいのではないかと、ある意味ショックを受けた人が多い。子ども主体とはどういうことかや、例を出してみてそういうことだったと、今までの刷り込みから逃れることがあったので、学びたいと言ってくれているのだろうと思っています。まだまだそうではないと思います。先生と子どもの観点からどう支援しているのか?見守る保育の先生と子どもの関係性。発達をもう一度考えてみると、子どもはそれまでの経験を通して働きかけ、先生がモデルを見せないといけないことがあります。小学校のカリキュラムと違って、

私たちは経験カリキュラムで、様々な体験をしていく。楽しい、不思議と思ったことを経験の中からある心持ち、心情が生まれます。ガラガラを振ると面白そうとすると、心情が生まれます。自分でもやってみたい、触ってみたいと意欲が生まれます。意欲が生まれ、自分でやってみたいと思ったときにやれる環境がないとできません。意欲が出た時に、実際にできるような寛容を作ることが先生の役割です。子どもの自発的行動を助けてあげる。衛生管理、援助に代わったのは、先生が考えた通りに指導するのではなく、支援することを言います。当然、先生の役割も大きい。ひっぱる、教え込むということではないけれど、先生は役割が大きいです。親と子の関係も、これは親まで介入しにくいが、親の一つのモデルと言ったら変だが、子どもと楽しく過ごしている姿を見ると、こんなに楽しんだと思うことがある。最近私の園で二人の親から続いてあったことだが、うちの園を先生方が楽しそうにしているのを見て、自分たちも楽しくなってきたと言われました。1つの子どもとの関係を先生が示すことがあるんですけど、もう一つは親と先生との違いがある。親として、保育者としてやるべきことが違うので、お互いが同じようにする必要はないと思っています。子どもも園での姿と親の前での姿を変えるわけなので、それを認めてあげる。子どもも園の中でがんがえっていると受け止めてあげる、子どもはその中で生き生きと過ごすようになると思います。

—世界から注目される理由とは—

それから、中国や韓国、シンガポールからアジア諸国から相談が来ているのはなぜか？一つは、アジアからのカリキュラムがない。ヨーロッパやアメリカはある。もう一つはどうしてもアメリカとかは保育者主導が多い。よく言われるのがアメリカでは見守る保育は無理と言われます。アメリカでは介入することが大事と考える国なんですね。幼児教育で有名なコロンビア大学ですが教師論、先生がどうすべきかの議論が多いです。ヨーロッパもそう考えることが多いです。世界で今教育改革が行われています。教育改革の先頭に立っているのが中国やシンガポール。シンガポールは最も今、素晴らしい改革を行っています。それに対しての幼児教育をどうかを考えだしています。ゆくゆくはアメリカやヨーロッパもこういう保育が必要になってくると思っています。ですけど、そこまで広げるチャンスや機会もないですが、これからはそっちも必要になってくるだろうと思っています。国内の幼稚園、保育園、こども園への導入についてどう考えているかは、はっきり言われたのが、私の話を聞くと感動するし、もっともだと思うし保育として素晴らしいと思うのに、日本で何万がある中で会員が300、400しかいないのですか？何で一緒になってやろうとしないのかと聞かれたときに困りました。1つは、考えたり変えなくても成り立つからですね。変えなくても園児が来ると思う人も多い、変えるのはエネルギーがいることです。もう一つは、それぞれのトップにいると集団の中に入ることに抵抗を持っている人がいるのではないかと思います。いいものはいいという言い方をしない。日本の特徴ですが同調圧力も聞いているのではないかと思います。同じように考えてしまったのが、こういう質問をされました。

—投資をするとしたら、何に使いますか？—

投資家がいろいろな投資をしています。新聞によく出ているのが「ユニファ」。コンピュータを使ってお便りをやったり、寝るところが大丈夫かを測るものを作り、保育者の仕事を軽減する会社があるが、多くの融資を得ています。今は十何億ですし、日経新聞では、何十億の投資を受けているとありました。その中で、投資の概念はあまりもっていませんでしたから、もしあなたが10億くらいの投資をするとしたら、何に使いますか？と聞かれました。答えに困りました。質問は好きだが、困る質問が多かった。何に使いますか？と聞かれても、具体的に使いたいものが思い浮かばなかった。ユニファが投資を受けて、何に使うんだろうと逆に不思議ですね。最初に考えたことを言ったのは、例えば、モンテは何をしたかったのだろうと同じように、私は何がしたいかを考えてしまった。お金を儲けて何

に使うか。園をいくつも作るところもあるが、それ自体は悪くないが、やたらと利益を増やしたり、上場をして利益を得てどうするのだろうと思う。その利益を得て、何をするのだろうか。いい家を買うとか、車を買うだけだろうかと考えてしまった。その時に、私は投資を受けたら、ノーベル賞の真鍋さんが、一つは何でアメリカに行ったかの理由は、アメリカはコンピュータが使い放題だからと言っていた。保育者の仕事を軽減するのではなくて、研究に使いたい。例えば、今回コロナによって、子ども同士の関わりが減ってきている。マスクで表情が見えない。これが、子どもにどんな影響を与えるか、「富岳」は飛散がどう散らばるかに使っているが、もっと精神的にどう影響を与えているかですね。マスクについて危惧しているのが、赤ちゃんは人の目を見る。だから、マスクをしていても大丈夫という。海外でも、目で表情を表すと言います。赤ちゃんは当然、目線がどう動くかを見ます。自分に向けられているか、獲物としてどうかの判断ですね。まず目を見ます。向けられている意味が、どう狙われているのかを判断するのは、次の表情です。目から分かるというが、思いやりのある目と書かれていたが、園児にどんな目をしているかを聴いたら、100パーセント目が怖いと言っていた。やはり広角や表情で表す。誰に向かって言っているのか、どんな気持ちで向いているのか。そして、そのあと一気に言語を覚えていく。赤ちゃんはまず、口の形を見ます。母音から判断するので、1年生の教科書には口の形が載っています。そこには教科書に口の形をはっきりすることで、言葉が明瞭になる。去年1年生になった子は、どう学んでいるのかなと思う。大事なことなのに、教えていないのだろうか。それがどう影響するのだろうか。それをコンピュータで分析できるなら、分析してみたい。リジリエンシーの力を身につけているのか、気をそらしたりしているのか。お金があったら、コンピュータを使いこなして研究出来たらなと思う。そうじゃないと情緒的にすぎてしまう。

—これからの保育①—

そういうことによって、時代がどう変化していくかがあるが、コロナによってずいぶん早まっています。これは気をつけないといけないです。鈴木先生の話にも出てきそうですが、無くなってしまう仕事があります。オズボーンという人が、半分仕事がなくなると言っていましたが、5, 10年の間になくなってしまう気がします。もう一つ、教育についてエデュケーション2030において、出されたが根拠がOECDの書き物を見ると、日本の東日本の大震災がきっかけだったそうです。災害が起きたことで、教育の概念が変わったそうです。これまでの教育ルール、想定外を教えることは意味がないこと、命にかかわってしまうのがエデュケーション2030です。それが同じくらいの想定外がコロナです。今後どう教育がどう変わるかですね。コロナの間だけなのか、終わってからも日常化するものなのか、極端に言ってマスクは日常化していくものなのか。ソーシャルディスタンスも、コロナだけではなく、日常化するのか。保育所の最低基準も見直さないといけません。コロナが終わって、どう変わるかです。ハード面で言えば、仙台に行ったときに聞いたことだが、保育園は平屋だったが、震災以降、新設や建て替えの場合なるべく逃げれるように3階以上にしましょうとなったと聞いた。今まで当たり前だったことが変わってきます。私たちはコロナが終わった後、ウィズコロナかもしれません、見通していくないと大変なことになると思います。1つはSTEM財団を作ったことを話しましたが、コロナ以後、コロナが世界を襲いました。たぶん次々襲うのは感染症だけではなく、温暖化や食糧危機、水不足が起きてきます。人類は乗り越えていかないといけません。ただ文系的な発想だけでは乗り越えません。もう少し、そういう考え方が必要だらうとSTEMが見直されています。この中に、AやSを入れろと言われますが、もう一度STEMの中に、STEAMの派生語があると言っていました。保育の世界はアートに行っていたと思いますので、あえてSTEMにしています。コロナの後、急激に進むと思っています。5歳児の教育プログラムを作成しますと書いてありました。言語と探求心、言語は議論したり、説明すること。探究心は、物事を探

求する力。例として砂場で遊ぶとき、山を作ったり、トンネルを作って遊びます。川を作った時に、どうしたら流れるか。高いところから低い方に流れるとか、水を入れると固まるとかの発想が必要と書かれています。ですから、例えばゾーンで、製作ゾーンや絵本ゾーンなどあるが、それと並行に STEM ゾーン、物事を論理的に考えたりする場所も並行して作るべきとなると思います。小学校でのプログラミング教育が始まっています。タブレットもはじまっています。問題はギガスクールにありますが、実はデジタル庁が出来て進めようとしていますが、問題はコロナであまりに遅れていることに気づきました。日本はデジタル関係が遅れていることがあって、問題は最近は DX といってデジタルだけではなく、どう社会を変革していくかに意味がある。これからどんな時代になるのか。

—これからの保育②—

いろいろな時代が変わるとときに、保育に関係するのが人口減少社会がきます。保育園がつぶれるという意味ではなく、子ども同士の関わりが無くなってしまうということです。それをどう取り戻すか、子ども同士の関わりの大切さを訴えていかないといけない。それから AI 人口知能の進展。2030 の中にも書いてあります。それは人とのかかわりと書かれています。藤森メソッドのカリキュラムで必要なのは、人と関わることだからです。これは AI には代えられません。モンテの教具を使うことで、指先を発達させることは重要ですが、細かいことをやることがロボットがやる可能性があります。しかし、子ども同士の関わり、共感する力は AI には代えられない。それを変えられないわりに、少子社会で子ども同士が減ってきている。これをもう一度取り戻そうとしないといけない。0歳から入ると、仕事と両立が難しいです。親はめげてしまって、やめてしまうことが多いが、私は国が2歳まで育休を伸ばすなら、2歳まで育休を伸ばしながら、園には入れる権利を出来るようにする。子ども同士の関わりを学ぶ場として、位置付けられるよう早くすることを皆さんとしたいことです。昔は保育に欠ける子と言っていましたが、私はそうではなくて、人間にとて必要な関わる力を学ぶ場として見直さないといけないと思っています。お母さんの代わりなどから、脱却しないといけないと思います。お母さんの代わりや、家庭の代わりなので処遇が変わりません。教育ですから、教員色であるべきだと思っています。そのために早く教育をする場所、子ども同士の関わりを学び、非認知能力を身につける場所とするべき。家で仕事しているかどうかにかかわらず、長くは小さいうちはかわいそうなので、親子同士の関係も必要なので、3歳以上にある1号認定をどんどん子どもが少なくなっているなら拡大して、最終的に0歳から1号認定を認める。どうしても集団に入れたければ、どんな家庭であっても入れる権利に私たちは変えていかないといけません。保育園の存在だけではなく、AI の進展にも関わります。グローバル化は語学が出来るだけではなく、人の文化の、人と共感できることが多様性にも繋がってきます。今まで多様性の中に障害児が見直されています。障害という言葉もなくそう。この子はどの部分が必要かを考える。障害に対して差別をなくそう、男女。LGBT についても認める風潮があります。男だから、女だからではなくその人はどうかで見るべき。日本は年齢で人を判断することが多いです、若いのに立派だねとか、若くても立派な人は立派です。5歳なのにではなく、その子はどうなのかで年齢に対する差別を策さないといけないと思います。最近言われている、VUCA 不安定、不確実、複雑な時代に対しての教育。何を子どもに身につけさせるかが時代で変わってきています。こういうことに対して対応しないといけないのが私たちに保育です。もっとみんなで勉強していくことが必要だと思います。私たちの考え方を見直して、祖父母の時代とは違って必要なものが変わってきています。その時にどんな力が必要かで言われるのが非認知能力と言われますが非認知能力をどう教えようかは教育方法は逆に認知的な物を教えるのと何ら変わりないんですね。認知的な物を教える方法で非認知能力を教えようとするのは無理です。教室は学年ごとに決められた認知的な物を教えるのに

最も効果的な方法です。長年研究して作られてきた教育方法です。教室に机を置いて子どもたちは前を向いて先生が教える。廊下がある、今までの必要だったものを教えるのに最適な方法だったが、時代によって教える内容・教わる内容が変わってきているのに、この方法でやろうしている。それが学校教育だけではなく、幼児教育までそれをモデルにしちゃっている。それを大きく見直さないといけないです。それを私たちのメンバーはそうなっていますけど、そうすると賢い子や成功するというのは勉強が出来るとか、いい学校に入り高収入を得ることと違ってきています、今はグーグルやウィキペディアを使えば知識を得られるので訳ですから、知識を身につけるような教育をしていても意味がなくなります。子どもたちに最も大事なスキルは、対話する能力、コミュニケーション能力や実行機能などを見るとわかりますね。人との関係の中で見につき、人との関係の中で発揮する力です。これが高いと成功すると言われています。これからこういう保育が必要ということになるわけです。私は強調したい、早く保育園をそう変えないといけないです。ぜひ幼稚園も一緒になって、幼児教育、乳幼児保育はこういう形に変えていくべきだと思っています。会員の皆さんにはわかっている人が多いと思っていますので、どんなことを子どもたちにつけさせたいと思っているのか、コロナでいろいろ聞かれる中で、これまでの保育のカリキュラムがある中で違っている部分です。子どもの主体性や自発性を引き出すことは、名だたるカリキュラム同じですけど、人と関わる中で身につけるものや乳児から身につけることは他にはありません。そういうことに対してぜひ皆さん、この部分はどうかなど見直して頂けたらと思います。これから新しい時代をみんなで作っていく思いで保育をして言って頂けたらと思います。こういうことが勉強できるようになったり、皆さんのところへ伺って仲間を広げていかないと自分たちだけがいい世界ではありません。幼児教育は変わっていかないといけません。本当の真意が伝わっていないからだと思います。さんは私たちがしたいことを書く地域で広げていってほしいと思います。今年からセミナーもそういうことを広げるためのリーダーを作ろうと思っています。ラーニングピラミッドの話があると思いますが、人に教えることが一番定着しますので教える人を作ろうというので今年後期あると思います。これからキャリアアップが行われますが、見守る保育を中心としたキャリアアップ講習が出来る講師を育てようと異計画をしています。ぜひさんは各地域のリーダーとなって広げていく中心になって頂けたらと思います。重なったり耳にタコが出来る部分があったかと思いますが再度見直して頂けたらと思います。私の話はこれで終わります。ありがとうございました。

本稿は、2021年10月19日に開催した「G Tサミット 2021」の基調講演の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)